

エリ阿斯？



エリ阿斯は
お酒ですか？
珍しいですね。

ミードに
薬草を漬け込んだ
ものだよ。

へえ。

明日、と思いつて
緊張して
喉が渴いちゃって...。
お水を。

そう。



チセ、
起きていたの



...と。
これは？
漆器、ですか？

うん。
この間一緒に行った時、
帰り際に
買ったものだよ。

三三九度用の、ね。



シルキーが
開くと言って譲らなかった、
私とエリアスの披露宴は明日。
パーティーパーティーを
失念(?)していた挽回
ということらしい。

その数日前の話。
私たちはロンドンから
北東約百十キロに位置する
ケンブリッジシャー州に
向かっていた。

Nectar and his robbin are two enchanting threads.

世界は思ったより
広い？

そうですね。

Reserved
Seat
408

まさか英国に
日本酒の醸造所がある
とは思いませんでした。

しかも、
エリアスの口から
披露宴には日本酒も出そう
なんて提案が出るとは
思いもせませんでしたよ。

ミードだけでは
レンフレッドが
物足りんだの文句を
言い出して
煩そうだからね。

ちょっとこうして
二人きりになりたいなんて
ストレートに言ったら
逃げるでしょ、君。

それに…



だ、だから
ルツを置いて
遠出を？

柔らかい
温い
気持ちいい

聞いておめでとう

.....

ちょ...
寝て!?

だって
朝早くから

おじい。

オックスフォード
あたりで
起こしてよ。

ハビ
子犬の次は
膝にのせる
キティ
子猫ですね
私。

おじい。

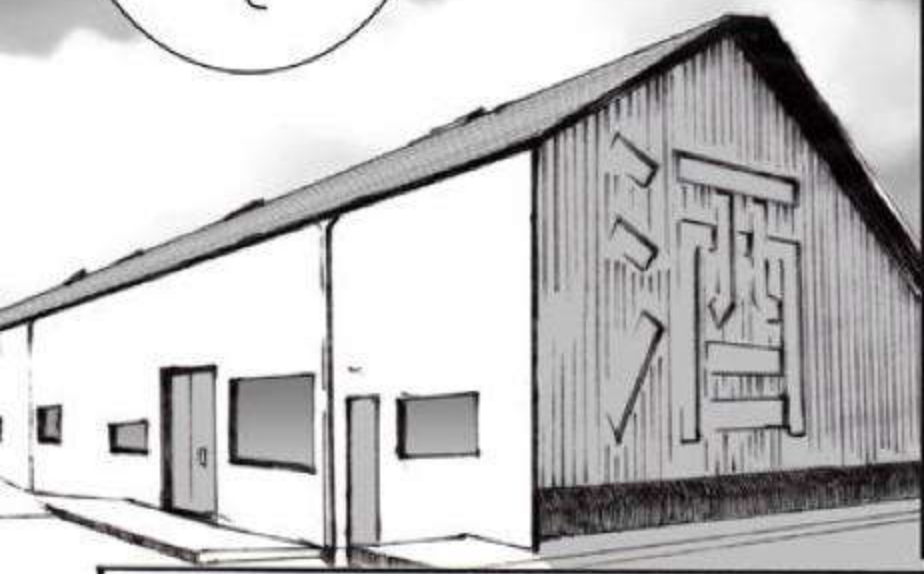
.....

ようこそ
エインズワースさん!

またお会い出来て
非常に嬉しいです!

そちらの
可愛らしい方が奥様で
いらっしやいますね?

三輪さんは、
どうして英国で
日本酒を？

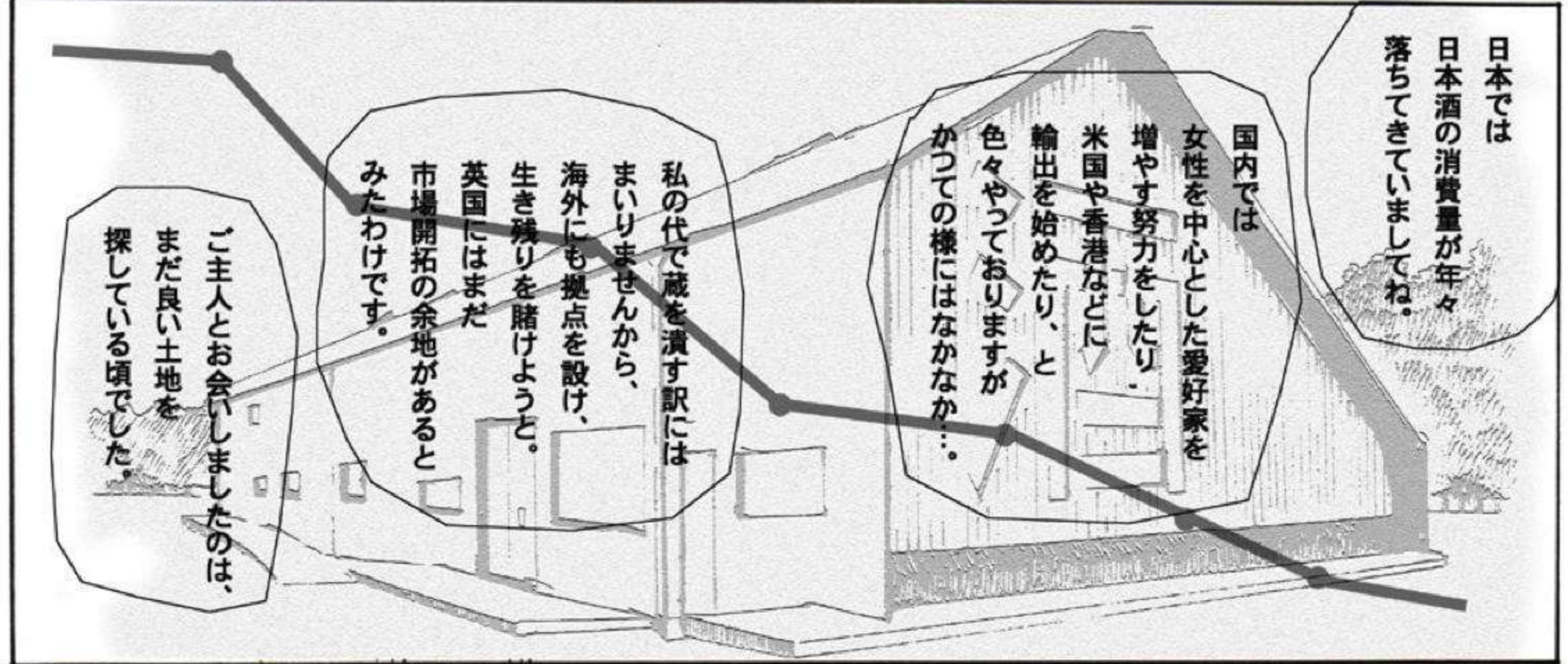


お………
お願いします。

ようこそ。
社長の三輪
です。



ええ。チセです。
チセ。
エインズワース。



日本では
日本酒の消費量が年々
落ちてきてしまってるね。

国内では
女性を中心とした愛好家を
増やす努力をしたり、
米国や香港などに
輸出を始めたたり、と
色々やっておりますが
かつての様にはなかなか……

私の代で蔵を潰す訳には
まいりませんから、
海外にも拠点を設け、
生き残りを賭けようと。
英国にはまだ
市場開拓の余地があると
みたわけです。

ご主人とお会いしたのは、
まだ良い土地を
探している頃でした。



お住まいのあたりで
困り果てていたところに
村の神父さんが
ご主人を紹介下さったのです。



助けていただいた
のですよ。



慣れない
海外での調査に
体調を崩しましてね。



いただいたお薬は
それはそれは
魔法のように
効きまじう。

その折名刺を
差し上げたの
ですが
覚えていて
下さったの
ですわね。

社長、
用意させて
いただきました。

ありがとう。

日本酒で
最高位ランクの
ものだよ。

ランクが
あるんですか？

是非、お試し
なさってみて
下さい。

一気に飲んじゃ
ダメだよ。
君、アルコール
初めてでしょ？

だい：
ぎんじょう？

三三九度に用いる
御神酒は、さすがに
入手できかねましたので、
我が社自慢の大吟醸を
用意させていただきました。



大丈夫？

か...は...

既に
酔いしれています。

.....

十八度くらい
ありますからね。
酔いを楽しむのは
徐々に慣れてい
いたいですよ。

尤も、
酔いという感覚は
日常から離れてい
くにつれ、
その感覚を
「奇」と呼んだ
そうです。

不思議な、珍しい、
人知を超えた
というふうな意味です。

日本酒は、神事やお祝い事、
くつろぎや舞臺など、
いろいろな場面で
使われています。

~~~~~





三三九度  
正式には  
三献の儀と  
申しますけれども、

神霊を受けた御神酒を  
新郎新婦が分かち合い、

絆を深める  
意味を持ちます。

この品に霊力は  
ございませんが、  
私どもの心は  
込めてございます。

お二人が  
未永く結ばれ、

ご来賓の方々にも  
喜んでいただけると  
願っております。

今日は  
有り難うございました。

いちばん。  
それから  
エインスワースさん、  
これを。

これは？

私からの  
ささやかな  
プレゼントです。

あなたは  
様々な文化や  
伝統といったものに  
造詣がかなりの  
ようだ。

理解  
出来るでしょう。

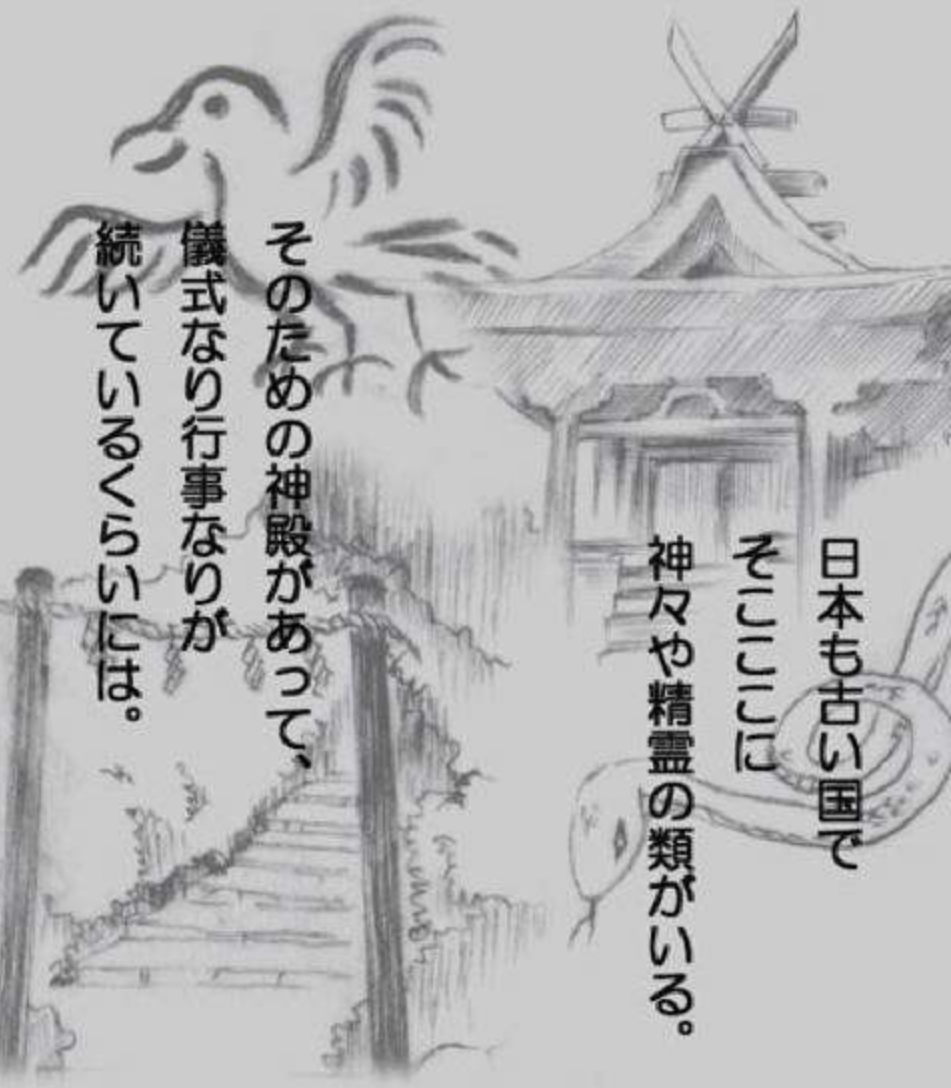
…あの時の。

うん、  
儀式で使う杯を  
用意してくれた  
みたいだね。

そう言えばエリアスは  
わざわざ三三九度を  
調べたんですか？

わざわざ三三九度、  
もともと極東にいて  
多少の知識は  
あったんだよ。





日本も古い国で  
そのじいじは

神々や精霊の類がいる。

そのための神殿があつて、  
儀式なり行事なりが  
続いているくらいには。



たまたま  
君が日本から来たから  
もっ少し掘り下げて  
いる内に偶然、ね。

なるほど。

新郎新婦がこの  
大中小の杯に  
三回ずつ注いでもらって  
三回ずつ口に含む、  
三の三倍数九が続く。  
割り切れない数だから  
縁起がいい、と。  
面白い考え方だと思って  
ちよつとやってみたく  
なつたんだよ。

$$\text{cup} \times 3 + \text{cup} \times 3 + \text{cup} \times 3 = 9$$



ミードは  
そういうのは  
ないんですか？

ないね。  
飲み方の形式  
なんていうものは。



日本酒は辛いような、  
甘味があるような  
感じていただけれど  
ミードは...

もっほ  
蜂蜜だから。



いきなり、何？

最初に  
ここへ来て  
貴方に服を  
剥かれた時

...そんな  
ことも  
あったね。



エアリエルが来て  
私のことを  
「土の金貨より尊い  
蜂蜜酒」って  
呼んだんです。



びびんっ

あれって  
私の魔力を食べた時の  
味なのかな？って。



甘くて美味しいなら  
そりゃ色々  
寄ってきますよな。



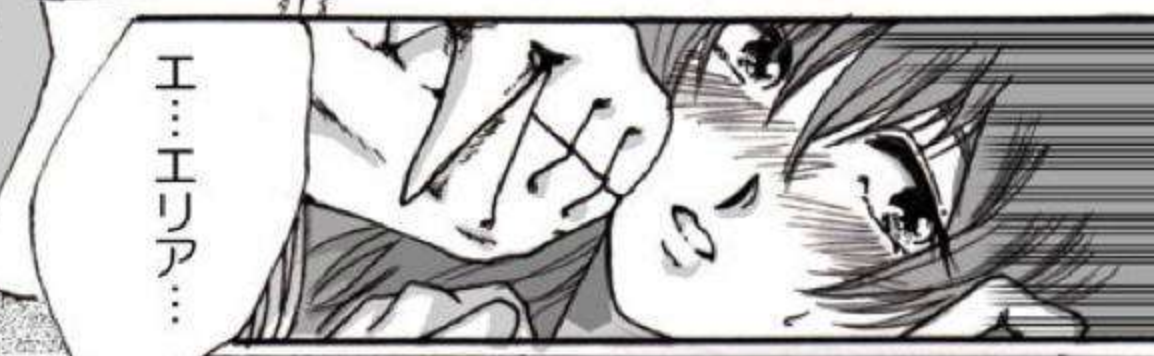
あー。

じゃあ私は  
甘いんですかね？





え？



エ…エリア…



…あまご…

はあ…

んあ…ん…



ん…ん…



ん…ん…

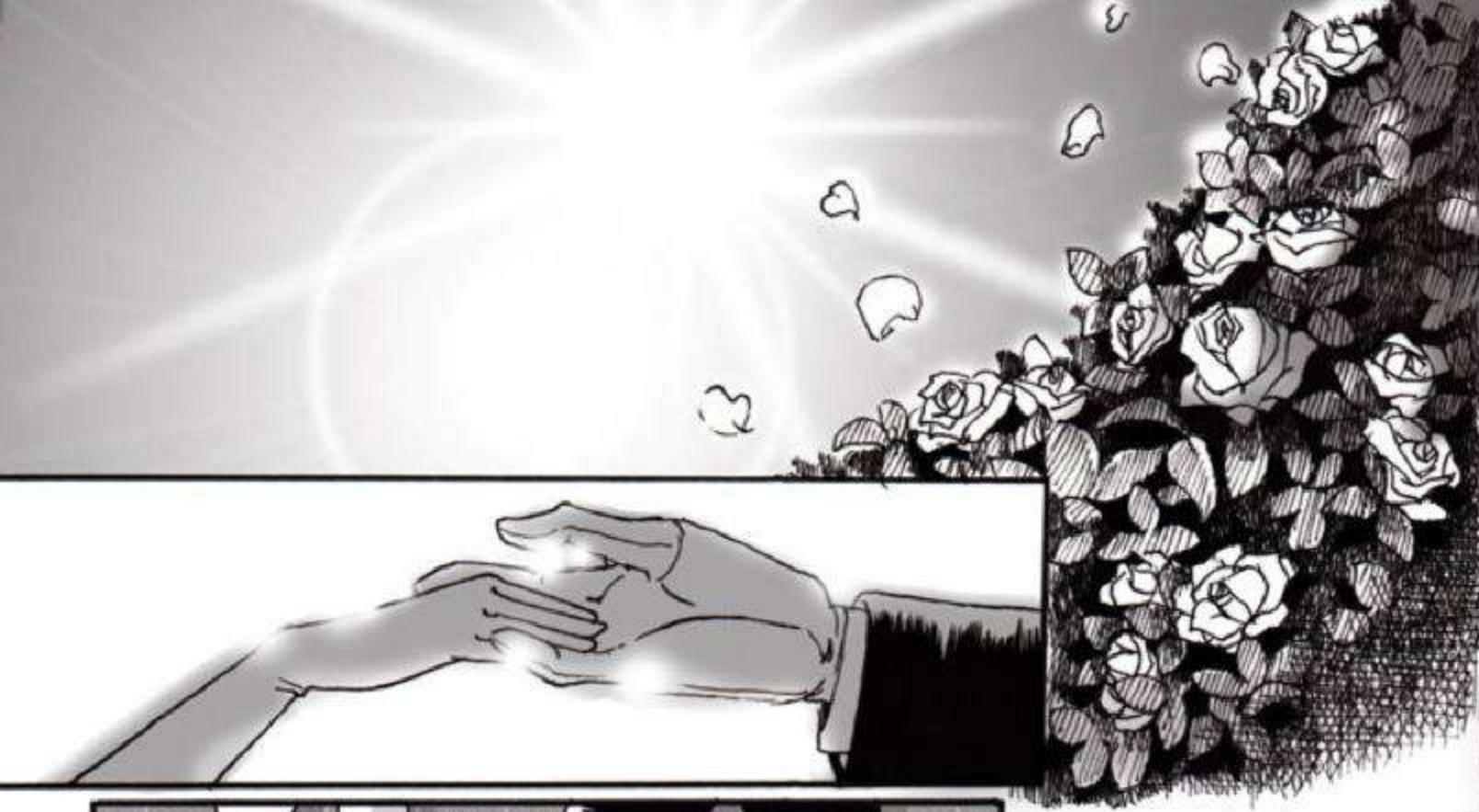
…

…

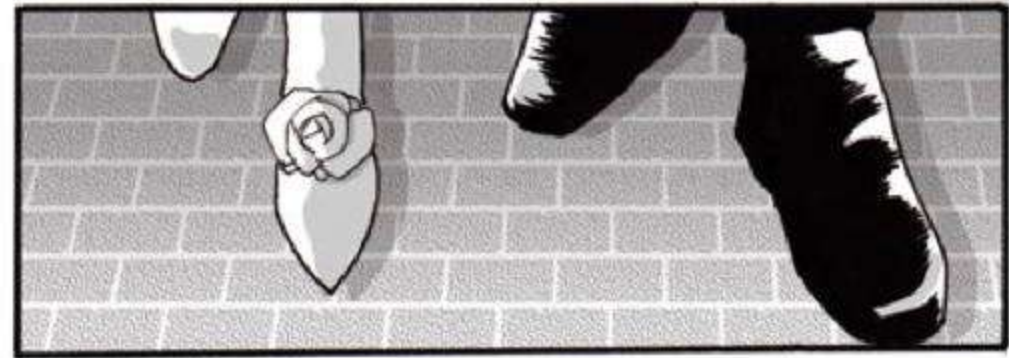
ん…

なに…を…





エリ阿斯も…



…ミードって  
…甘いんですね…。



おめでとー！



おめでとう  
二人とも！！



きれいだよ  
チセ！





奇跡たる  
二人に  
乾杯だよ！

ミードで  
祝福を！



思ったほど  
甘くないツス  
ね。

本来はベタ甘だった  
らしいぞ。  
これは飲みやすく  
調整してあるんだろう。  
ケルト民族の間では  
不死の飲料とされた  
そうさ。

そうなんスか。

今はワインや  
ビールに  
圧されているかな。



おおっ。  
気が利くな！

ん？  
この透明な  
ものは…？

ざら〜り



えっ  
じ、充分  
アルコールじゃ  
ないツスか？

しかし  
モノ足りんな。

この間、チセとエリアスが  
オレを置いて  
ケンブリッジまで  
わざわざ買いに行った  
「日本酒」とかいっやつた。

ほうー！  
それはそれは。

お前、無理  
しなくてもいいぞ。  
耳が…

ワインのような  
香りがするな！

師匠、  
ペース早すぎ  
ツスよ！

何のことか  
これいき。

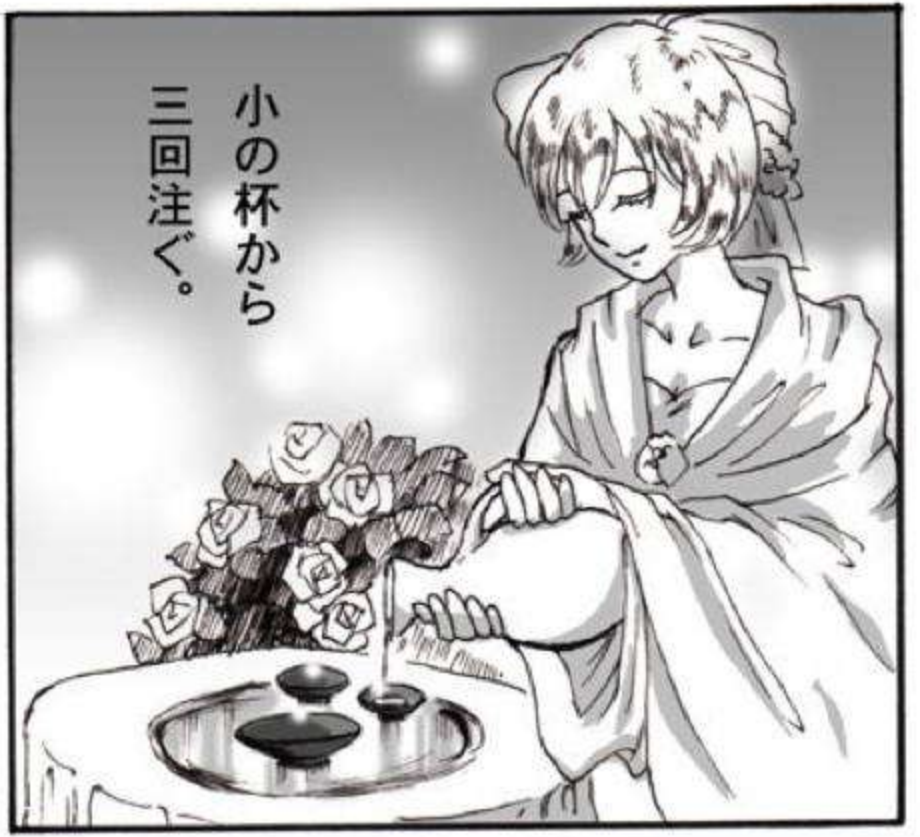


わい  
わい



ありがとう。  
銀の君。





小の杯から  
三回注ぐ。



先に新郎が三回  
口に含み、



同じ杯に  
再び三回。



それを  
新婦が  
同じように  
三回含む。

次に中の杯は新婦から、  
大の杯は新郎から、  
どちらも小の杯と同じ所作を繰り返す。

「割れない」 まじないは  
お互いの身に取り入れられてゆく。

あるいは  
小の杯は過去を

中の杯は現在を

大の杯は未来を意味するとも言われている。



異国のまじないを  
僕か？と

君は笑うかも  
知れないけれど



僕は  
君を繋ぎとめるのに  
結構、真剣だよ。









…隣の部屋で…  
眠る君を襲って  
しまわないように

衝動が過ぎるのを  
待っていた。

それは  
ダメだ。

力で組み敷くのは  
容易いけれど…

死ににくい身体で  
半端物だから

こんな本能が…  
欲求があるのかしら  
解らなかつたのじ。

…気付かなくて  
ごめんなさい。

…今、も…  
苦しいですか…？

私で…  
癒せるなら…。

…苦しい…。

ssss~



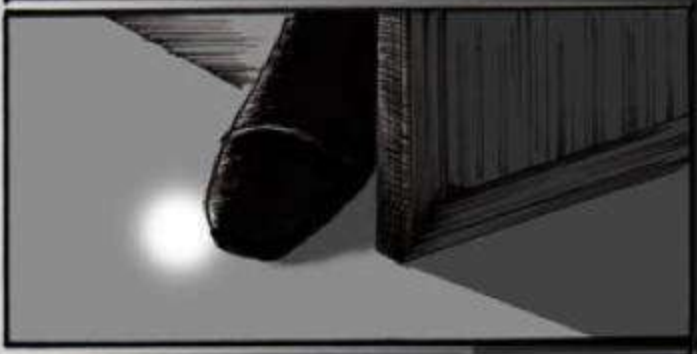
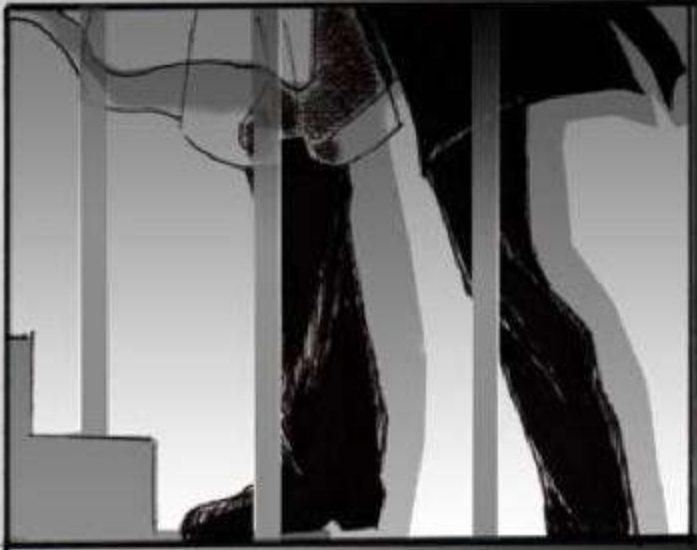
旦那さん、が  
苦しいのは  
イヤです。

やっと言って  
くれたね。

三三九度で  
腹をくくれた…  
というか…。

で…でも、  
…二人だけの時、限定で  
お願いします。

ひひ…。



あ…お腹…  
やっ…



やっばり心配  
かけたのかな





エリア...

ス...ひあ...あっ

ん...!?

チセ...

...

声、聞かせて。

...へん...に  
思いませんか?

思うものが  
聞きたいよ  
もっ...

もっ...

ん

あ...っ

あ...っ

ん...っ

もっ...

叫んだって  
いいよ。

や...っ

も...っ  
も...っ

今はルツも来られない  
感覚も伝わらない  
僕だけだから...





…うんちが…  
嫌?

…っ…  
あ…っ…

…エ、エリアスが  
したらしい…  
…っ…

…今は貴方の…  
アリス…  
っ…



チセ…  
君は  
どうもなごい  
甘いね…

アリス

肌も…

声も…



ミードなんて  
足下じゃ  
及ばない…



チセ…

ん…っ

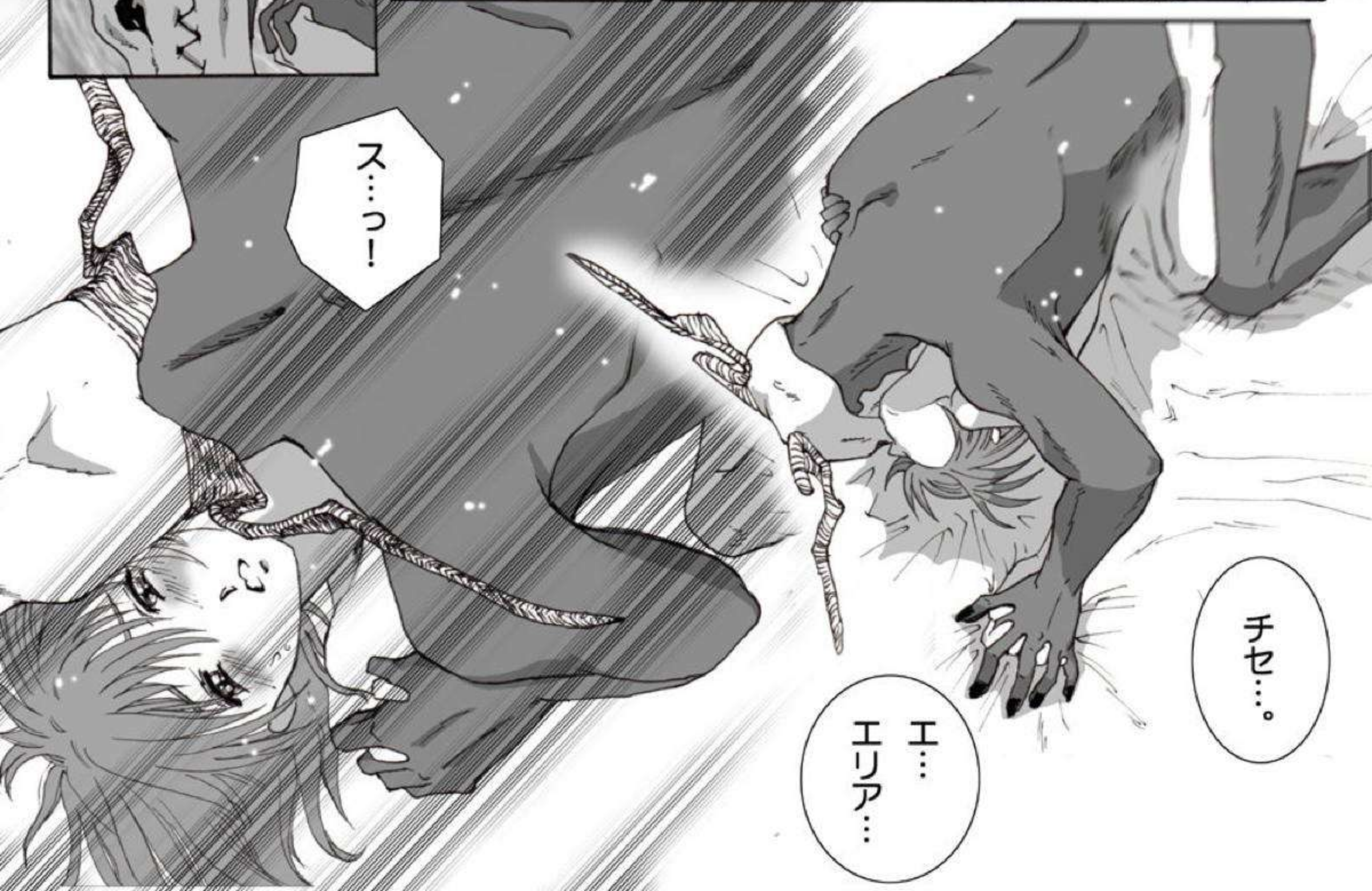
わ…っ  
…私…

おかっ  
な…っ…



僕だけのもの  
だよ…





ス…っ!

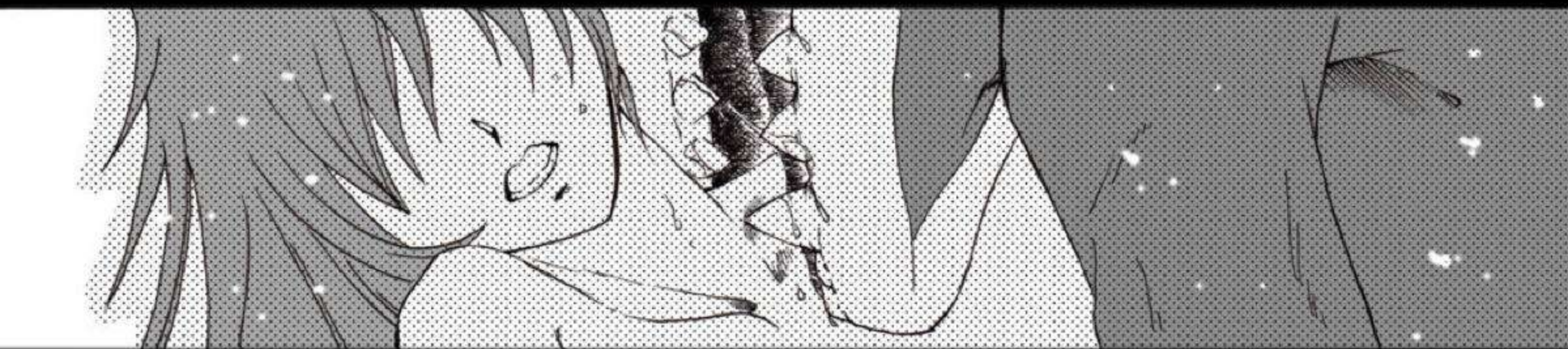
エ…  
エリア…

チセ…。





「酔う」ということは、



日常から離れることにつながります。



古の日本ではそれを「奇し」と呼びました。







チセ…。

はあ

…痛かった？



…少し…。



でも、  
怪我した訳じゃ  
ないですし…

貴方を癒せたなら  
私も嬉しいですよ。







まったく  
君は…。



エリ阿斯  
私、もう…。

あっ、…  
待って…。



…だめ。  
離さない…。

「美酒と美しい娘は  
二本の魔の糸  
経験を積んだ鳥でも  
これには  
まんまとひっかかる」

…あれは  
誰の言葉だったか

君が僕を  
「酔わせた」んだ。

今夜は  
醒めそうに  
ないから…。

END